

受験番号				

座席番号			

(試験開始の合図の後に記入)

# 成城中学校入学試験問題(第二回)

## 国語

(配点一〇〇点)

令和三年二月五日 八時五〇分 — 九時四〇分

### 注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は全部で15ページあります。
- 3 解答には、必ず黒色えんぴつ(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 4 解答は、必ず解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
- 5 問題冊子、解答用紙それぞれの指定の欄に、受験番号と座席番号を記入しなさい。
- 6 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号などを記入してはいけません。また解答用紙の余白および裏面には、何も書いてはいけません。
- 7 文字数の指定のある問題は、句読点などの記号も一字に数えます。
- 8 問題冊子の余白は、下書きに使用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題冊子、解答用紙はどちらも持ち帰ってはいけません。試験終了後、必ず提出して下さい。

【一】 次の問いに答えなさい。

問1 次の――部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。(ていねいにはつきりと書くこと)

- ① 敬いの気持ちを大切にす。 ② 山積みの書類のタバ。 ③ 彼はキンコツたくましい。  
④ エンマンに問題を解決する。 ⑤ 追加点をユルした。

問2 次の文の□にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

部屋のすみで、ほこり□になつてゐる古い人形を見つけた。

- ア がらみ イ ぐるみ ウ まみれ エ ずくめ

問3 次のア～エの文のうちから、誤つた言葉の使い方を含むものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア その証言は決して間違つていないと、胸を張つて言うことができます。  
イ たとえみんなが知つてゐるならば、わざわざ報告する手間が省ける。  
ウ 机の上に置いてあつた手紙が、まるで手品を使ったように消えてしまった。  
エ 天気が悪くなりそうなので、明日の試合はおそらく中止だろう。

問4 次の熟語の対義語をそれぞれ漢字二字で答えなさい。

- ① 自然 ② 原因

問5 「閑古鳥が鳴く」の説明として最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 元気があり、いきいきとした様子。  
イ 人が集まり、にぎやかな様子。  
ウ 元気がなく、疲れている様子。  
エ 元気がなく、寂れてしまった様子。

## 【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

さて、これからの時代の民主主義を考えてゆきましょう。民主主義はいつの時代だって大切だと言われます。けれども、時代によって民主主義の意味は変わります。たとえば子どもの数がどんどん増えて、経済成長が続く時代には民主主義は運用しやすい。成長の時代にはライフスタイルも人口構成も大きく変わり、社会問題も多くなりますが、経済成長の富の分配方法をみんなで決めようという民主主義は、最終的にはみながある程度納得できる結論を出せます。

しかし人口がすごい勢いで減り、高齢化が進展するいまの日本社会ではどうか。いまや分配しなくてはならないのは、富ではなく **I** です。日々の報道でご存知のとおり、社会保障費はどんどん増えていきます。日本の場合、社会保障は基本的に医療と年金が大きな比重を占めています。これは明らかに年配者にとって重要なシステムです。職業トレーニングや住宅・保育園の整備を重視する、いわば若い人に手厚い社会保障体制を取ることでもできるはずですが、そうはなっていないません。簡単に言えば、若い人が **II** 体制なのです。

そのうえ、もともと数の少ない若年層の人口はいま減少しています。団塊の世代では一学年二〇〇万人と言われましたが、現在では出生数が一〇〇万人を切っています。さらに悪いことに若い人は選挙に行かず、投票率が極端に低い。声をあげないわけですから、自ずと政府も若い人のための何かをやるうとはしなくなってしまう。

民主主義は現在のような、リスクと負担を分配しなければならぬ時代には、うまく機能しません。政治家も馬鹿ではありませんから、みなさんの世代にさまざまな問題があることは知っています。けれども、「こんな問題があります、負担はこれくらい増えます、最悪の時代が来ます」と言つて、選挙で投票してもらえないでしょうか。良薬口に苦しと言いますが、苦い薬のことは触れず、なるべくキレイごとを並べておいて当選しようと考えてるのは自然な成り行きです。

いまの時代にあつた、もつと役に立つ民主主義に変えてゆく方法はないのか、それが私の考えていることです。いくつか例を挙げて考えてみましょう。

フローレンスというNPOの名前を聞いたことがありますか？ 駒崎弘樹さんが始めた病児介護を専門とするNPOです。将来、みなさんもきっと経験すると思いますから聞いてください。小さい子どもはよく風邪もひくし、熱も出します。すると大変です。学校には行けません。保育園も預かってくれませんし、共働きの夫婦では、家に子どもひとり置いてゆくわけにもいきません。私も、さあ今日は重要な学会発表だという日に、子どもに熱を出され、妻と私とどちらが休むのか、頭が痛くなるような思いをしたことが何度もあります。こういうときに、具合の悪い子どもを預かるサービスが病児介護です。

代表の駒崎さんはまだ若い男性ですが、すごく面白いことを考えている人です。意外かもしれませんが、彼は結構ビジネスマンタイプ、起業して成功しようというタイプです。そして同時に政治にも関心があり、社会を変えようという野心も秘めた人です。慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパスで学び、まだ二十代のうちにIT企業で成功を収めます。けれども、このまま大金持ちになつて六本木ヒルズに暮らして、自分は社会を変えたことになるのだろうか、とある日考えたと言います。

自分が本当にやりたかったのは、自分の力で社会を変えることではなかったのか。ベンチャー企業でお金儲けするだけではなんかちがうぞ、と彼は自問しました。そのときに社会企業家、ソーシヤル・アントレプレナーという言葉に出会います。アントレプレナー、企業家です。ボランティアではありません。

では、「ソーシヤル」とはどういう意味なのでしょう。それは、この企業は、営利を上げることが目的にしていけないという意味です。普通の企業はできるだけたくさんのお金を儲け、株主に配ることが目的です。しかしフローレンスは社会問題を解決することを目指しているのです。お金が儲かったときには、株主に配当するのではなく、組織をより充実させるために使います。

駒崎さんはソーシヤル・アントレプレナーという言葉に出会い、これだ！と思つたと言います。

### III

最初は役所から資金援助を得て実現しようと考えましたが、そうするといろいろな縛りが厳しい。施設を設けるには、何平米以上の場所に何人以上子どもの面倒を見る人がいなければならない、などとさまざまな規制がある。まともにそれに対処すると、サービスの値段がどうしても上がつてしまいます。そこで彼は、子どもを預かっても良いですよという普通の家庭の人と、いざというときのお医者さんのサポートをつなげてゆけないかと考えました。

③ 始めはなかなかうまくゆかなかつたようです。子どもが風邪をひくのはたいがい冬、十一月から二月くらいの間です。その間はいいのですが、四月から七月、気候のいい時期にまるで商売にならない。これはビジネスとしては重大な問題です。最終的に、掛け捨ての年会費を納める会員制度を導入して、年間通してうまくやってゆけるようになりました。

面白いことに、厚生労働省がそのシステムを真似したそうです。「せつかくうまく行くようになったのに、真似されてくやしくくない？」と聞いてみたのですが、彼はこんなことを言いました。「自分は社会を変えるためにこれを始めた。社会を変える方法はなんでもいい。まず、いままで誰もやったことのないことを自分でやってみる。あ、うまい仕組みだということになれば、みんなが次々に真似をして広がってゆく。これでもいいんだと思った」と。

駒崎さんは社会を変えたいと思つた一方で、政治家になりたいとは思いませんでした。そして、いままで役所も企業もやらなかつたけれども、あれば助かるサービスはたくさんある。それを実現する方法はアイデア次第だとわかつた。何も自分が政治家や権力者にならなくても、あつた

ら良いなと思う仕組みをつくる方法はいろいろある。駒崎さんは、「数で闘<sup>たたか</sup>ったら絶対に若い世代は勝てない。だったら、自分たちで作ってしまえばいい。そのことをいままでも「政治」と呼ばなかったことの方が、おかしかった」と言います。

政治とは、社会の問題をみんなで解決してゆくことです。民主主義はそのための方法です。誰か他の人に、問題解決を押しつけるための手段ではありません。駒崎さんの言うとおり、まず自分でやってみせ、それをみんなが真似して社会が変わってゆく、それも政治だし、民主主義なのです。

これも駒崎さんに教えられたことですが、NPOに関する税制が変わりました。自分が選んだ認定NPOに指名してお金を出すと、その分を税金から控除<sup>こうじょ</sup>してくれる仕組みが導入されたのです。これは革命的なことです。いままでも税金の使い道を個別的に指示することはできませんでした。へんな公共事業に使われても、文句を言えません。ところが教育なり失業対策なり、自分が大切だと思<sup>おも</sup>うことに税金を使<sup>つか</sup>ってもらえるようになったのです。政府任せだった税金の使い道に口を出せるようになったことは、私<sup>わたし</sup>たちの民主主義にとって重大な変化なのです。

〈宇野重規「新しい民主主義をつくろう」『高校生と考える日本の問題点』(左右社)による〉

問1 ——— ①「時代によって民主主義の意味は変わります」とあるが、経済成長の時代の「民主主義」はどのような働きをしたか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 次々に起こる社会問題を解決するために、お金の使い方をみんな決めて決められるようにした。
- イ 社会問題も多かったが、経済的な豊かさを求めていく方法を見出す助けとなった。
- ウ ライフスタイルが多様化するなかで、お互いの価値観を認め合う社会を作る土台となった。
- エ 人口が増えても、できるだけ多くの人が幸福になるように社会保障を充実させた。

問2 I にあてはまる言葉を本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問3 II にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 二の足を踏む
- イ 匙を投げる
- ウ 恩恵を被る
- エ 割り进行

問4 ——— ②「意外かもしれませんが」とあるが、どのような点が「意外」なのか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 利益を出すことに関心があるのに、社会貢献にも取り組んでいる点。
- イ 医者ではないけれども、あえて畑違いの医療分野に挑戦している点。
- ウ 金儲けをすると同時に、政治家としても成功しようと考えている点。
- エ 若い起業家であるのに、経験豊富な経営者のように行動している点。

問5 III には、次のA～Eの各文が入る。最も適当な順番に並べ替えたものをあとのア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- A 政府や市役所のような公共サービスも当てにできません。子どもを預かるサービスはありますが、値段がとても高い。
- B そのとき彼は二十代、結婚もしていません。家政婦をしているお母さんから聞いた、子どもが熱を出すとどこも預かってくれないという話をヒントに病児介護に乗り出します。

- C そこで彼は、普通の夫婦が利用することができて、信頼しんらいできるサービスをつくろうと考えました。
- D 調べて見ると、確かに学校と保育園はもちろんのこと、病院も預かってはくれません。
- E そしてなにをすればいいのか、探しはじめます。

- ア E ↓ C ↓ A ↓ B ↓ D
- イ E ↓ B ↓ D ↓ A ↓ C
- ウ C ↓ A ↓ B ↓ D ↓ E
- エ C ↓ E ↓ D ↓ A ↓ B

問6 ——— ③ 「始めはなかなかうまくゆかなかったようです」とあるが、どのような問題があったのか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもが体調を崩よろす季節に子どもを預かってくれる家庭が見つからず、結局医師の助けを借りなければならなかった。
- イ 様々な規制に合わせていこうとしたためにサービスの値段が割高になり、思ったように利用者が集まらなかった。
- ウ 公的な支援を得られないなか、サービスの利用者が季節によって異なるために安定した収入が見込みこめなかった。
- エ 子どもを預かってくれる家庭と、いざというときの医師のサポートとをつなげることでできないケースが出てしまった。

問7 ——— ④ 「私たちの民主主義にとって重大な変化なのです」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「重大な変化」とはどのようなことか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。
  - ア 政治家だけに任せないで、自分の考えを直接政治に反映させようとする事例が出てきたこと。
  - イ 役所が民間の意見にも耳を傾かたむけるようになり、起業家のアイデアを採用する事業が増えたこと。
  - ウ 若い人の意見が公おおやけに採りあげられるようになり、高齢者だけの意見で政治が運営しんぎやうされなくなったこと。
  - エ 政治に関心を向ける若者が増え、社会的課題に取り組もうという動きが社会全体に浸透しんとうしてきたこと。

(2) 筆者は「私たちの民主主義」をどのようなものだと考えているか。本文中の言葉を用いて三十五字以内で説明しなさい。ただし、「」ではなく「」の形で答えること。

問8 「アントレプレナー、企業家です。ボランティアではありません」とあるが、次の〈資料〉を読んであとの問いに答えなさい。

〈資料〉

【定義】

ボランティアとは、医療や福祉、まちづくりや環境問題、あるいは文化や国際的な問題などなど、多様な地域的・社会的課題に対して、「おかしいぞ」とか「おもしろそうだ」といった関心から出発し、それを「他人事」にしないで自ら学び、主体的に、他の人びとと協同的にそれらを解決しようとして行動する人、また、そのような活動（運動）を通じて自らを成長させる人——、と一応定義しておきます。この他にいろいろな定義があります。他の文献を調べて比較したり、あなた自身で定義してみてもどうでしょうか。

【性格】

ボランティア活動が持っている性格については、①自発性（主体性）に関わる性格、②公共性（福祉性・利他性・連帯性）に関わる性格、③無償性（金銭的無給性）に関わる性格の3つをあげる人が多いように思います。このほか、先駆性（開拓性）、変革性（抵抗性）、体験性（学習性）、継続性（プロセス）など1つか2つ加える人もいます。

〈岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』（大阪ボランティア協会）による〉

(1) 「ソーシャル・アントレプレナー」と「ボランティア」の性格の違いについて説明した次の文の [X]・[Y] にあてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。ただし、[X] は本文より八字で抜き出し、[Y] は〈資料〉より三字で抜き出して答えること。

ソーシャル・アントレプレナーは、[X] を目指してはいない。[X] があれば、組織の運営や充実のために用いる。しかしその一方で、ボランティアの大きな特徴として [Y] という性格があげられる。

(2) 「ソーシャル・アントレプレナー」と「ボランティア」に共通する姿勢について説明した次の文の [Z] にあてはまる言葉を〈資料〉の【定義】の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

ソーシャル・アントレプレナーにもボランティアにも [Z] 姿勢が共通してみられる。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昼休みの教室には、机をくつつけたいくつもの島ができていた。大陸と呼びたいような大所帯もある。中学の給食の時間とは違う。めいめい仲の良い相手と昼食をともにすることができるといふ。

入学式から半月以上過ぎた。僕は教卓の近くの、机みつつ分の島にいる。宮多を中心とする、五人組のグループだ。

宮多たちは、にやんこなんとかという僕の知らないスマホゲームの話で盛り上がっている。猫のキャラクターがたくさん出てきて戦うのだという。ゲームをする習慣がないから、意味がよくわからない。さつきからぜんぜん会話に入れない。課金とかログインボーナスという単語が飛び交っている。もう、相槌すら打てなくなってきた。

祖母の顔を思い出して、懸命に話についていこうとした。だって友だちがいないのは、よくないことなのだ。家族に心配されるようなことなのだから。

「なあ、松岡くんは」

宮多の話す声が、途中で聞こえなくなつた。ふいに高杉くるみが視界に入ったから。

① 世界地図なら、砂粒ほどのサイズで描かれる孤島。そこに彼女はいた。箸でつまんだたまごやきを口に運んでいる。唇の両端がきゅつと持ち上がった。虚勢を張るわけでもなく、おどおどするでもなく、たまごやきを味わっている。その顔を見た瞬間「ごめん」と口走っていた。

「え」

② 「ごめん。俺、見たい本あるから席に戻るわ」

ほかんと口を開ける宮多たちに、背を向ける。

図書室で借りた、世界各国の民族衣装に施された刺繍を集めた本を開く。宮多たちがこの本に興味を示すとは到底思えない。わかってもらえるわけがない。ほんとうは『明治の刺繍絵画名品集』というぶあつい図録がよかった。残念ながらそちらは貸出禁止になっていたのだ。③ どのように糸を重ねてあるか、食い入るように眺める。ここはこうなつて、こうなつて。勝手に指が動く。

ふと顔を上げると、近くにいた数名がこつちを見ていた。男女混合の四人グループのうちのひとりが僕の手つきを真似て、くすくす笑っている。

「なにっ？」

自分で思っていたより、大きな声が出た。他の島の生徒たちが気づいて、こちらに注目しているのがわかった。宮多たちも、でももう、あと

には引けない。

「なあ、なんか用？」

まさか話しかけられるとは思っていなかったのか、ひとりがぎよつとしたように目を見開く。その隣となりの男子が「は？　なんなん」と頬ほおをひきつらせた。

「いや、なんなん？　そっちこそ」

べつに。なあ。うん。彼らかれらはも「も」と言い合い、視線を逸そらす。教室に、ざわめきが戻る。遠くで交かわされるひそやかなささやみや笑い声が、耳たぶをちりつと掠かすめた。

校門を出たところでキヨくん、と呼ばれた。振り返ったその瞬間に、強い風が吹ふく。

キヨくん。小学校低学年の頃ころのままに、高杉くるみは僕の名を呼ぶ。当時は僕も彼女を「くるみちゃん」と親しげな感じで呼んでいたのだが、学年が上がるにつれて会話の機会が減り、今ではもうどう呼べばいいのかわからない。

「高杉さん。くるみさん。どっちで呼んだらええかな？」

「どっちでも」

名字が高杉というだけで塾じゅくの子らに「晋作しんさく」と呼ばれていた時期があつて嫌いやだった、なので晋作でなければ、なんと呼ばれても構はかわらないらしい。

「高杉晋作、嫌きらいなん？」

「嫌いじゃないけど、もうちょい長生きしたいやん」

「なるほど。じゃあ……くるみさん、かな」

歩いていると、グラウンドの野球部やサッカー部の声がどんどん遠くなっていく。今日は世界がうつすらと黄色くて、遠くの山がぼやけて見えた。春はいつもそうだ。すべての輪郭りんかくがあいまいになる。

「あんまり気にせんほうがええよ。山田くんたちのことは」

「山田って誰たれ？」

僕の手つきを真似て笑っていたのが山田某なにがしらしい。

「私らと同じ中学やったで」

「覚えてない」

個性は大事、というようなことを人はよく言うが、学校以上に「個性を尊重すること、伸ばすこと」に向いていない場所は、たぶんない。柴犬の群れに交じったナポリタン・マステイフ。あるいはポメラニアン。集団の中でもてはやされる個性なんて、せいぜいその程度のものだ。犬の集団にアヒルが入ってきたら、あつかいに困る。

アヒルはアヒルの群れに交じれば見分けがつかなくなる。その程度のめずらしさであっても、学校ではもてあまされる。浮く。くすくす笑いながら仕草を真似される。

「だいじょうぶ。慣れてるし」

けど、お氣遣いありがとう。そう言って隣を見たら、くるみはいなかった。数メートル後方でしゃがんでいる。灰色の石をつまみあげて、しげしげと観察しはじめた。

「なにしてんの？」

「うん、石」

うん、石。ぜんぜん答えになってない。入学式の日「石が好き」だと言っていたことはもちろんちゃん覚えていたが、まさか道端の石を拾っているとは思わなかった。

「いつも石拾ってんの？ 帰る時に」

「いつもではないよ。だいたい土日にかがしに行く。河原とか、山に」

「土日？ わざわざ？」

「やすりで磨くの。つるつるのぴかぴかになるまで」

放課後の時間はすべて石の研磨にあてているという。ほんまにきれいになんねんで、と言う頬がかすかに上気している。

ポケットから取り出して見せられた石は三角のおにぎりのような形状だった。たしかによく磨かれている。触つてもええよ、と言われて、手を伸ばした。指先で、しばらくすべすべとした感触を楽しむ。

「さっき拾った石も磨くの？」

⑤ くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた。

「磨かれたくない石もあるから。つるつるのぴかぴかになりたくないってこの石が言うてる」

石には石の意思がある。駄洒落のようなことを真顔で言うが、意味がわからない。

「石の意思、わかんのか？」

「わかりたい、いつも思ってる。それに、ぴかぴかしてないときれいやないってわけでもないやんか。ごつごつのざらざらの石のきれいさってあるから。そこは尊重してやらんとな」

「じゃあね。その挨拶あいさつがあまりにも唐突とうとつでそっけなかったの、怒おこったのかと一瞬焦あせった。

「キヨくん、まっすぐやろ。私、こっちやから」

川沿いの道を一步踏ふみ出してから振り返った。ずんずんと前進していくくるみの後ろ姿は、巨大きょだいなリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのが楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないことに触ふれるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、そのほうが楽しい。

ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。

「昼、なんか怒ってた？ もしや俺あかんこと言うた？」

違う。声に出して言いそうになる。宮多はなにも悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまったただけだ。自分が楽しいふりをしていることに。

いつも、ひとりだった。

教科書を忘れた時に気軽に借りる相手がないのは、心もとない。ひとりではぼつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさをごまかすために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、好きではないことを好きなふりをするのは、もつともつとさびしい。

好きなものを追い求めることは、楽しいと同時にとても苦しい。⑦その苦しさ⑦に耐たえる覚悟かくごが、僕にはあるのか。文字を入力する指がひどく震ふるえる。

「ちやうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺繡の本」

ポケットからハンカチを取り出した。祖母に褒ほめられた猫の刺繡さつゐを撮影さつえいして送った。すぐに既読きどくの通知がつく。

「こうやって刺繡するのが趣味しゆみで、ゲームとかほんまはぜんぜん興味なくて、自分の席に戻りたかった。ごめん」  
ポケットにスマートフォンをつっこんだ。数歩歩いたところで、またスマートフォンが鳴った。

「え、めっちゃうまいやん。松岡くんすごいな」

⑧そのメッセージを、何度も繰くり返し読んだ。

わかってもらえないわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだろう。

今まで出会って来た人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。

いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がぱしゃんと跳ねた。波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなって、じんわりと涙が滲む。

きらめくもの。揺らめくもの。目に見えていても、かたちのないものには触れられない。すくいにとって保管することはできない。太陽が翳ればたちまち消え失せる。だからこそ美しいのだとわかっていても、願う。布の上で、あれを再現できたらいい。そうすれば指で触れてたしかめられる。身にまとうことだって。そういうドレスをつくりたい。着てほしい。すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ。きらめくもの。揺らめくもの。どうせ触れられないのだから、なんてあきらめる必要などない。無理なんかじゃないから、ぜったい。

どんな布を、どんなかたちに裁断して、どんな装飾をほどこせばいいのか。それを考えはじめたら、いてもたってもいられなくなる。

それから、明日。明日、学校に行ったら、宮多に例のにやんこなことというゲームのことを、教えてもらおう。好きじゃないものを好きなふりをする必要はない。でも僕はまだ宮多たちのことをよく知らない。知ろうともしていなかった。

⑨ 靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる。

〈寺地はるな『水を縫う』(集英社)による〉

問1 —— ① 「世界地図なら、砂粒ほどのサイズで描かれる孤島」とあるが、それはどのようなことをたとえているか。最も適当なものを

次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 他の生徒と異なる態度をとっているために、かえって人目を引く状態。
- イ 他の生徒が賑やかに過ごしているなかで、さびしさを感じている状態。
- ウ 他の生徒が交流しているなかで、相手にされず目立たない状態。
- エ 他の生徒がいろいろと話しかけても、自分の世界に浸っている状態。

問2 —— ② 「ごめん。俺、見たい本あるから席に戻るわ」とあるが、このように宮多たちに言えるようになったのはなぜか。四十字以内

で説明しなさい。ただし、「く高杉を見てく。」の形で答えること。

問3 —— ③「どのように糸を重ねてあるか、食い入るように眺める。ここはこうなって、こうなって。勝手に指が動く。」とあるが、このような状態を表す四字熟語を答えなさい。

問4 —— ④「犬の集団にアヒルが入ってきたら、あつかに困る」とあるが、それはどうということか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 平凡な人たちが大勢いるなかに個性的な人が入ってくると、その個性を十分に生かしてあげられないということ。
- イ 力の強いものたちのなかに力の弱いものが入ってきても、強いものは弱いものに合わせられないということ。
- ウ 同じものが集まっているなかに別のものが入ってくると、個性によっては尊重しきれないということ。
- エ 経験者のグループに初心者が入ってきても、何の役にも立たなくて誰も相手にしないということ。

問5 —— ⑤「くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた」とあるが、ここから読み取れる「くるみ」の態度はどのようなものか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア それぞれの石に合わせて、そのものが持つ本来の美しさを大切にしたり、美しさを引き出しようとする態度。
- イ 石を美しくするのにどのような技術が必要かを判断し、自分の能力以上のことはしないと表明しようとする態度。
- ウ それぞれの石の特徴を観察して、手をかけるに値するものと値しないものを慎重に選り分けようとする態度。
- エ 自分の心に訴えかけてくるものは大切にあつかい、心に響かないものはそのままにしておこうとする態度。

問6 —— ⑥「そのほうが楽しい」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

- ア よくわからない話を聞くには我慢が必要だが、わからない話にも耳を傾けることによって相手との信頼関係が築けるから。
- イ 興味関心が共通する仲間うちだけではなく、自分とは別の価値観を持つ人と交流すると思いがけないものに出会えるから。
- ウ 話の通じ合うもの同士でやりとりするだけではなく、今まで知らなかった人とも交わることで人間関係が広がるから。
- エ 自分の世界を大切にするのもよいが、つまらなそうなものでもいったん理解してしまえばそのおもしろさが味わえるから。

問7 —— ⑦「その苦しさ」とあるが、どのような「苦しさ」か。二十五字以上三十字以内で説明しなさい。ただし、「他人から」という言葉で書き始めること。

問8 —— ⑧「そのメッセージを、何度も繰り返し読んだ」とあるが、「何度も繰り返し読んだ」のはなぜか。最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

ア 今までの友だちとは違い人の趣味にまで口出しをしてくる馴れ馴れしさが気にはなるものの、宮多には本心を打ち明けても平気だとかって安心したから。

イ 宮多はゲームのことにしか興味がなかったはずなのに、突然自分の趣味を受け入れるようなメッセージを送ってきたことの意味がわからなかったから。

ウ 自分の身勝手な行動が宮多を怒らせてしまったと思いきや、逆に自分のことを気遣って作品をほめてくれたことが嬉しかったから。

エ これまで自分の趣味に対して否定的な人が多かったため、今度もそうなるだろうと決めつけていたが、はじめて宮多に認めてもらえたのが意外だったから。

問9 —— ⑨「靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる」とあるが、このときの「僕」の気持ちとして最も適当なものを次のア～エのうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の好きなことを認めてくれる人もいるとわかり、好きではないふりをして自分のさびしさをごまかしてきたむなしさに気づかされたので、これからは他の友だちにも認めてもらおうと意気込んでいる。

イ 趣味の世界は自分一人で追い求めるものだと思っていたけれども、それは間違いだと友だちから教えられて同じ趣味を持つ仲間を増やして周囲からの理解を得ていこうと決意している。

ウ 自分一人の世界に閉じこもっていたこれまでの生き方がいかに身勝手なものであったかに気づき、これ以上周りに迷惑をかけるわけはいかないから自分を変えていこうと考えている。

エ 本来の自分を認めてくれる人などいないという思いこみから解放された一方で、自分自身も相手を理解しようとしてこなかったことに気づき、他の人が関心を持つ世界を知ることから始めようと思っている。



